



この書のつぎきき
 かよるべきみあの
 ぶかあるとその
 ちあせるとめてあ
 こ八月とらの夕べ
 ちひがひの内宮
 つまれて海を物
 つり人のらみ
 のまねとてうま
 せらるまや

頭書古今和歌集を鏡巻第十七

雑歌上

歌一七

よき人あきす



よがうへおあをわくあつ夫の川と流る舟のうのれあづら

○ワレガウへコレ空カラあがつてくれハコレハナシテモ天川ノ

渡レ船ノカイ乗テアロカイ

あぢぢちあ居せりあづらあききたるあくとまきおそであう

○かう心ノウラトウレウチヨシテ居ル夜ハ

三

夕ツテイヌルカ

らリオホイモノテサボガルワ

あまのつ子吉平六
年五月廿七日
吉原三條

○拙者が妻ヲ大切ニ存スレバソユカリ久ハ誰テモナサ妻

日前ニワケヘタテナレニ大切ニ存スルワイ

大納言あぢのつ子つねの朝臣さまおより

中納言あぢのつ子つねの朝臣さまおより

くるとてよめる

つ子とんやえん昔よりうききんよほてし物と

○コレ白ノ綾ナバナニ毛色ガワテ奥ノイヤウニ名ハレヤル

デカチゴサウ五只トウカラキ扱ヘキヨウ心サレテ濃ウ

濃テオイヤ綾テゴザルモノヲ

いそのうと此おこまろがニヤはう人もせいでいそのやと

いふところふありのほろをふとろううううううううう

まうなれはもう二びいひはううううううううううう

いそい

日のひらうやぶしうねいひのうとさうあしおぢもほろ

○心ノ内ズミハドニテモキワツテテウ下日ノ光トイマウナテ

レ文呼デモワケヘタテナレ照トナサレ、憂りナバ久レウ引

籠ツテゴサツテ内沙汰モナカツタモモは及カウニ仰付

ラレテマコトニ花ガ咲テシロイ一ツ目出度ウゴザル

世ハハ強サの義ヲ
本意のつやう
てあつたあつた
いひのうハあつた

大正神の事
皇氏の祀

大正神の事
皇氏の祀

二條のきさねの事
皇氏の祀

子おあつて孫おまうで
おひらる日よめ

ありひらの朝臣

大正神の事
皇氏の祀

○カヤウニ子孫の事
皇氏の祀

系譜ノアルナバハ
大正神ノ事
皇氏の祀

大正神の事
皇氏の祀

ありひらの朝臣

○アノ天女ノ舞ノ事
皇氏の祀

アノ天女ノ舞ノ事
皇氏の祀

大正神の事
皇氏の祀

大正神の事
皇氏の祀

大正神の事
皇氏の祀

五音のまじりのお
まじりまじり
おのまじりまじり
ひまじり

上りまじりまじり
まじりまじり
おのまじりまじり
まじりまじり
おのまじりまじり
おのまじり

河東のたけしおのまじり

ぬいばねまじりまじりまじりまじりまじりまじり

○はまのまじりまじりまじりまじりまじりまじり

おやまもまじりまじりまじりまじりまじりまじり

娘は誰まじりまじりまじりまじりまじりまじり

上句又まじりまじりまじりまじりまじりまじり

寛平の時子入のまじりまじりまじりまじりまじり

うまのまじりまじりまじりまじりまじりまじり

おろまじりまじりまじりまじりまじりまじり

人ぞまじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじり

○まじりまじりまじりまじりまじりまじり

有末まじりまじりまじりまじりまじりまじり

分テ沖へ出まじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじり

おろまじりまじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじり
まじりまじりまじり
まじりまじりまじり
まじりまじりまじり
まじりまじりまじり

まじりまじりまじり
まじりまじりまじり
まじりまじりまじり

好むすまゝとあや
とくんのこゝろひなれが
こころのゆれつ
そのこころあや
あやとくまきんぞ
そこのやうであ

甲申及まうがど
うきあふぐし

女ごとの足く日くひなまをよめ

きんがひあうし

くちくちくちやぬぢれめおあれんやあふあさび形うめん

○女中々々ツタニラ 笑ハレカコフあり形コソ海山カオシ

朽木やウナレワモきモツラ 心ハ花ニモオラウア

くちくち子人のあふあふれまらときああ

のきぬときせうとあうとよくはとよ

こころ きのこもれり

らの附をきん

好のそれよめ夜はうすなまをくちくちくちくちくちくち

○ユズオカリヤタハ夜ハ時希ナハウズウハコルケレウツリカ

サテモア濃ウ赤ヒスルカチオオとオオ赤ド感心被シタ

待村コエーおあまあうし

歌ーん ちんーす

おろくづう月あふあふあうし引の山のあふあふあ

○サテモアオオ出九月テオオカチコトサテモコチラテア

ニ待ツトホリニアク東ナ山ヤチテモ山ハハカクア人ガ比目惜トエ

一エソレコチラエ出テコオアア

甘利
又級ハ行禮
級款ヲ更級
そそわと山事
大和の
まこ山子
すて
て
こわ
と
ゆ

つらんちぶらあう母つらじふやます山はる月と見て

○今夜は、バス、山、月、見、六、井、ち、甘、カ、月、テ、見、テ、居、ハ、ド、下

モ、ナ、ウ、物、カ、シ、ク、ウ、テ、モ、テ、ワ、ト、ウ、モ、ガ、ハ、サ、レ、ヌ

は、あ、と、守、て、さ、の、山、の、あ、ま、う、つ、る、工、お、あ、く、ん、又、あ、く、

あ、ま、う、つ、る、守、お、ま、つ、づ、こ、お、て、も、日、事、さ、う、い、あ、の、さ、

い、た、月、見、れ、ば、ち、子、お、ま、さ、め、か、く、な、れ、お、い、つ、う、く、

ひ、あ、る、と、と、あ、く、と、ば、す、て、山、ま、く、見、る、時、子、よ、め、る

ありひくは朝は

た、く、月、ま、め、ぐ、と、れ、ぞ、あ、の、つ、ま、れ、ハ、人、の、老、く、お、る、あ、の

○タイカイナラモウ月モ上リ業散スニイソコノ見ル月ガ

ア、ン、ダ、ク、ト、モ、ビ、人、年、自、年、月、月、ガ、ヤ

ま、ま、く、あ、れ、ぞ、み、く、い、あ、何、ハ、依、禮、子、コ、レ、ガ、ア、^{エ、キ}云、分、ヤ、と

い、ま、ま、あ、り、こ、れ、は、あ、の、さ、ま、ま、二、の、外、あ、も、雅、云、ま、は、ら、の、と

い、つ、ま、ま、と、と、あ、の、さ、ま、ま、い、あ、る、候、多、く、お、安、子、初、句、た、く、と

の、と、あ、る、本、と、さ、り、て、ま、ハ、あ、ま、ま、い、く、何、る、ハ、い、づ、

月、お、り、ち、と、ま、く、九、河、内、新、帳、が、ま、ま、い、ま、ま、

く、く、子、よ、め、る 紀、伊、つ、ゆ、ま、

つ、あ、れ、ご、う、と、も、あ、る、が、月、影、の、い、く、め、ま、ま、あ、じ、と、あ、ら、ハ

上、子、も、何、を、感、ず、く
甲、の、あ、ま、く、ら、は、が、持
く、く、ま、れ、ぬ、あ、ら、め

○月ハカワシテ居ツモアウリノ名カウカコバカレバ
 ナレドゴモカレコモ影ノユカ又里モアルイモ夜レハモ
 ナレモカレラヌ
○子林云々たぐり二面、足れぐううとくもあるが
 のままたぐうハ見えとくとまこつ子やれら子
 おまきる
 有あり。

池子月の見え方とある

○月ハフツハナトモテ山ハテオケバ出ヌモヤトオラタニ
 山
 今テイア池ノ水底ニ出タコトハニツモアノト見え
 歌しらす
 一トモ人志く候

おまきる
 有あり
 のままたぐうハ見えとくとまこつ子やれら子

こままたぐうハ見えとくとまこつ子やれら子

○天ノ川ハ垂テ水エホテ候ガサニヨツテ月光ガサニラクモ
 三早ウ流シテユク

○一トモアタラタニ月ノカクシク山ノモトニ居テ居ル山
 今テイア池ノ水底ニ出タコトハニツモアノト見え

○一トモアタラタニ月ノカクシク山ノモトニ居テ居ル山
 今テイア池ノ水底ニ出タコトハニツモアノト見え

一トモアタラタニ月ノカクシク山ノモトニ居テ居ル山
 今テイア池ノ水底ニ出タコトハニツモアノト見え

去左日記よりある事
の事山の事ありけ
て今もあつた事
ありけり
ついでに
あつた事ありけり
ありけり

いふことありきと云ふ事

此の山の事

あつた事ありきと云ふ月の事ありけり

○ 丁月ハガ見タタニキツウ早ウケアカルルカナアノ月ノ際

ルガヨキニケテイテ月ヲ入テウケテヨイニカウエフノ八月ノ

ツカガヤナキ

田村の事ありけり

一の事ありきと云ふ事ありけり

らねんと云ふ事ありけり

あま敬信

大なる事ありけり

○ 室ヲ照テユク月カ清イヨツテナホ世カカクテモドウレテモ

先ハキエセエハサテ

野ノ事あり

よき事あり

いふ事ありけり

○ 上モトカラ心ハナボウデモ又シラレ又モノヤ

いふ事ありけり

○ 今カキツイケルカナキ 清水カヤトミテ 名ノ高カクテ群中ノ清

いふ事ありけり
いふ事ありけり
いふ事ありけり
いふ事ありけり

のよあると形ん

さうさぬふ年もゆるあんどりもあすさる敷やとふふと

○月日がドウゾアアササミアアトエキヨイニソシタラ何こノアチウ

ツイカチユク人間ノ年モソ月日トイッヨミ跡モトツテ又若

ウ九テヤシウカトヤハガ

とろとむおありあゝぬ年月とあれ何あるとはしつゝお

○月日ノ名テユノスハソリシラ九モテナケバドウモセウノカナ

サニアハ白ウタツタノカチ五アウノトヤトニテタテユラキヤ

とあゝあすもさうとふいれたりあつもつおあくるさよひら

新しきまのま

○トイウトムフテモトウモトメラレイデ四ハヤウニアヨレケニシラヌ

カホテ心ツヨウスカクト年ハ五テユクノカヤ二トレトスルルカ

モツトモナノチヤワイトトニ早イトネノナレバ

おぼす。句とおきうそく一四五二と改身してんぬア

とあり。よまゝし。

かゝ山五のびまありそそやうんごしぬる身ハおひや一びま

○鏡山ト云山ナラ人ノ影ガヨウウツハテアラウホトニ久四シウカチ

ハ五シ年ガヨクカトドレヤヌキヨツチアテチカウツ

たのあゝあゝ人けいさくたごとのころぬし

ふい山まのま

ふい山まのま
ぬむい

母のまにに控て天
白の白く女何やめ
親とく
も長山博ふと河
野あり

ありひの朝はのまれこも長よすくはけい。
肘子形ひくまつへすとして肘もえすうりさあ
はすはをさかあもすづうりあまのこのめいよ
まもこの^{キフン用}あまをくみりてめうでまきうあまて
そればあまづあて有るま

老ぬまびさあぬおれもあるといふひあままくわもまき

○世中ノエラビテゼヒトモノカニ別トモア九トスナハ 年ヨツス
殊ニ明日モレレ子バイ多ク君ニ下ウダ産タイコカナ
上白ニエトイサオとてんぬぞ。

上白ニエトイサオとてんぬぞ。

くー

ありひの朝は

あがくこまへれ
わらうこ

世の中さあぬおれの形くもあまもまきく人のまねぬ

○親、寿命ラア、ドウゾ年々セトれ、子々々世中ニドツダ

道レ又別レトエフ子イヤニタイコカナ

も杖人の子
くのふ、親あむ

くくく子とつふと人のあやうのよも
を親あむ、まもは理のあむ

安年、あ肘きまへのまねあ金のあ

ありひの朝は

か雪のハきくくくく山あふくもあひよりくく那

○オガ頭ハ子雪ノイノモツモツタヤウニ白ニチツテ

上の白く女何やめ
親とく
も長山博ふと河
野あり

此の書
長来
人

あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて

カヘズモキツイ年ヨリヤウカチ

おふど山崎人のきつひよしてこのこともしおをこ
まなひくおふみあさび何うらまはひてふつう

あつてあつて

こゝろきれ朝に

おふとくもどくおふとくもどくおふとくもどく

○おふとくもどくおふとくもどくおふとくもどく

バ年おふとくもどくおふとくもどくおふとくもどく

ヤウナアリカタイトニアウモノカイ年ガヨウテ生テ并レバコン

まあきの流野屋つらう

おふとくもどく

まあきの流野屋つらう

ちのやがうまのこもあつてあつてあつてあつて

○一 宇治ノ橋守ヨホカノ人ヨリハ其方ヲオホヒズレモオレ

ト曰ビヤウニ年(父老人ガヤトアハサ

おふとくもどくおふとくもどくおふとくもどく

此住ノ口ノ岸ナ松トモハオカガ足キカテモモウスレウチルガト

ヨリニ始カスハイカホト年ヲ経タフヤラサタメテキツウスレ

フテアリス

何事此岸此岸おふとくもどくおふとくもどく

ちのやがうまのこもあつてあつてあつてあつて

上の白を指すもの
うつくしき岸を
まきぬかのうへは
ぬものまじり

ガクラ舟年々タモノハトシトナイ 海村ヨリ

よき人志くは

上^{ほほ}の白を指すもの
うつくしき岸を
まきぬかのうへは
ぬものまじり

○オビ海沖ノホアヒへ浮ク沫ノヤサナモテ 消ズニアリナカ

ラドコヘモヨリツク所モナイ

やろりのうぎ〜あきせるを人の涙もそめてあぢあぢ山

○浪ノ白ウツクハトツトをウツクニカソテアノ浪ハ海ノ

神^{カミサ}振^サルツクノカガレヤトノソニアラ淡路島ヲコレカラ

見^ミズアノクノ白浪デグルツトトリミテテテウド

チヲレタヤウチ サテモえ事ナケレキヤヤ

おまじり〜まき〜まき〜海のてみてまあま又

お海の花あそび

くらのおよせ〜海のもも〜も〜のりきまう海も

○は^ハ本^ホ津^ツ島^{シマ}ヲ見^ミズ浪^{なみ}ノウチヨセルヲウスタトサテク面白^{おもしろ}イケレ

キカナ ドウゾ^{どうぞ}ノ^のモ^も味^{あじ}テ^てタイ^{たい}上^{うへ}ヨ^よ只^{ただ}カヤ

おまあ〜おまあ〜おまあ〜

おまあ〜おまあ〜おまあ〜おまあ〜おまあ〜おまあ〜

○アノ島ガミナテクサウチ 難波ノ三^{さん}タノ島ニ鶴ガトニサ

上ノアノ島ガミナテクサウチ
難波ノ三タノ島ニ鶴ガトニサ
おまあ〜おまあ〜おまあ〜
おまあ〜おまあ〜おまあ〜

沖はの波ハ和歌よ
て虫牙のいんじ
わいりのちあふん

上六序中くゆきの
あつたふもてあう
終らるるハまろく
まろくまろく

いんじやとふまよ

ワ下ラ鳴ク

まろくがうづくこのおひつりたる時やまろくようこそま
ろくまろくまろく

まろくまろく

まろくまろくまろくの波は鳴くまろくまろくまろくまろく
○拙者ハまろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく
子モ下サレヌサテクキツイオミカキリゴゴガ
まろくまろく

まろく

まろくまろく

まろくまろくまろくの波は鳴くまろくまろくまろくまろく
○一アノまろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく

まろくまろくまろくまろく

まろくまろくまろくの波は鳴くまろくまろくまろくまろく
○雑波がたノ風景サテク面白サニクハクハクハクハクハクハク
玉藻ヲ刈ル海士ニサオレハチラウヤウニハハル
あひまろくまろくまろくの波は鳴くまろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく

まろくまろく

まろくまろく

ちりりふまがし

け玉ヲロヨテオイテ惜リトスソレテウガガウカヤウニウイハ
筋ノ後ニセウト存ズル

布びきの遊れゆとあくるくあつあつてあよる
ゆるゆるよめる ありひるれ朝夜

ぬきこころんこあふふしを玉のまふくもあつ袖れせびき

五 ○けマアセイ袖へツシモセヌホト玉ガマヒダナニニキウチアチツテ

クルトカナコトナデモツナヒテアル玉ヲ 進ゾ緒ヲトイテハラクニシ
テコノ遊ノ上ノ方カラチキス人がサアルガウチ

あめゆとるくよえん

承均法師

あれや布はあれや
形イ

誰たれ不引くさるゆる布あれやよとて足れどとる人もあき

○アヒラハツテサラシテアル布ハ誰ガキルモノニスル布ガヤカツトてへ

カタカラスルガイツ足テモツマデアツテ トリイハ全モナイ

遊とすかえち布あつくもこたるあり水あるニとも
おあど

遊〜〜だ

林といは師

清遊のそれあまうてあて山合あろもあつてきあつて

○け清廣川遊々ニタツ浪ト下白イ糸チヤコノ糸ヲムツテタ

あつて文法を承
あ祥ニ年九月子
雨とつ〜あつて
は附あつてあつて
この日法神のあつて

鴉く雁とあつて
終はあつた

○嘆フ夕時カラシテ入ウチツイテ世中イウモ春ギヤカシテ
比る色ガジヤウチウオニシジフギヤ

屏風の表はよそ合せくうきなる

坂上これのう

ウツて山田のいねれきまなれてはナキ後れれりうたれお

○オレ秋カッライニヨシテ一二はヤウニヒやくト涙ヲ流シテ泣テ
カラスアトウツては雁とあつて下句の縁をせり。

頭書古今むあ集まを後巻之序十七

頭書古今和歌集を後巻之序十八

雑言下

影くらげ

よこ人あらず

芝の中は何うのねあつた川まのへの濁ぞらふ六波ふあつ

○世中は何ガイウデモカハラヌモノチヤツアイヌカ飛を川ヲ見ル昨日

テ何デアウタ呼ガサ今日ハモウ浅イ波ニル川サガウチヤスレマ

ナデモカハラヌ物ト云ハナト

いよくもあつた鳥をよぶるもかくあぬのうもふあひるこころ

○モウ生イキテ居ルアヒダモ何ホドモアルイハヤヲ海士イノ列ル藻ノ

古今和歌集の序
あつた

ワキ世もあつたハ
幾許の本もあつ
トこころ日を経ル
万歳マシラウツト

よきふくむじ

上の句をたれず
こゝろをたれず

とちぢまのまけ
るゝくあり

よきふくむじ
のむすぶのふま
もあはれはれはれ
あはれはれはれ

乱れ文やウニナゼオレハア此やウニドウカウトイロクニ苦勞ニ名

ウツゾモウツカノヲチヤドウデモカウデモヨイフガヤニ

傳のくもき此朝夢をたれずのこおひつまきぬ世の中れうさ

○二三心入レル時モナレニ常住名ヒゴトノツキル上ニモナレ

コ世中ノツラサウ

小形だうむくの朝辰

あつとてそむくはかく小奉しあれはまがぬあまの

○カウチヤトエテガレラモセヌ中チヤニナソトエドニツ

ア、ウイセ中ヤトエテナル

くひのうこはぢぢこまきこまかあうり此初りる人

ふつうけ

このまき

よきふくむじのむすぶとあはれを、おや子孫あうといひく

まうのがまて、ぬめまてまてまて、まてまてまてまて

いふ中、よきふくむじ、まてまてまて、まてまてまて

あはれはれはれはれ、まてまてまて、まてまてまて

まてまてまてまて、まてまてまて、まてまてまて

あうての初まき、まてまてまて、まてまてまて

あはれはれはれはれ、まてまてまて、まてまてまて

初年のわいふれつ
ついでふらうのう合せ
そとびー

三の根やうき
らあり

とまうとつひあれふもさうとまうとつひ一様あ
まゆと考へて知るべし幸ふまき初あり。

○モレ京ノ人がワガコラドウヤト君子女ナラ 山が高サニ

シラウチウ雲ハレヌヤウニ心モハレヌまゝニ難美ニオモフニ
屋上トエツテ下サレ

少んやのやすむいごふかのぞう子ありてあつた
足子ハエのぞいひやまアノルらうらうらふ
よあり
おまあがの祝日らうらう。

小孫小町

いあんしぞあつとい
ひくえあふちと
まあがよまきと
とらうまあべー

とびぬれがとほまの根と絶くさるる水あふの形んがあふ
○ワニハモウイツライヤテ 難美ヲ技ニテアリニスバ 浮草ノ
根がカウテドクモ水ノ方ヘサソヒテマヤカニ誰テモサウ
ウラク人ガアガエラドツチナリモ来ラウトサ存ニスル

野くらげ

あはれふとこさうとてまの甲とあひを船あぬあじありとせ

○人アハレオイトレヤトミテクセル付がサ ウタテヤ世中ヲエ名
ヒナレスホダレガヤワイタツニモサウニステクセル人がアト

音母あふにまよと
あふいふくもまよ
うらもまよのあふ
あうりらうらう
わくわくとまよ

心ハサテヨウテアノウトハルワイ

よき人

学の中ハありしよりやうううん 衆多ひん 此れあふれん

○ヨノ中ハ世ガラフ成りニウイ世中テアツカ但シ又オビガヤヒト

ツノタニニヤウニウイ世中ニチタノカ

子林ニニヤハカ
うや乃のこま

よの陣とつと山へのま木とやあふれん 色子もまらん

○世間ノ人がアノヤトマテ世中ライトウテ暮テ住ム山ノ草木

ヤトマラウイトマノ名ノ如花ガ山へタ

こよの山の何ぞもあもつたよのうき 附の隠れウホせん

○吉野山ハスイブシカイ山チヤカオガソモハ一タツノ吉野山ヤ

チラニ家ガホトイモノガヤ世中ノウイ時ノヒツコニ取ニセウニ

世ノあはれうきこころまきれこよのうき 附のあはれ

○世間ニカウレテ居バ 汝才ニウイツライコトカリマヒテウルニ一日

モ子ウ 吉野ノ雜和ナ山オウヘヒツコモラウツヤレノイヤナ世ノ

中チヤ

いつか人いそ初の中オオオオオオオオオオオオオオオオオオ

○ドノヤウナ海イ山中ニヌタナラハ世ガノウイノガキコエテコヌテ

アノウツ すすくくくくくくくくくくくくくくくくく

ヤハチハあまの徳
アハチ

卯の花ハあまの徳
アハチ

かみハあまの徳
アハチ

位ハあまの徳
アハチ

ヤウウとハ何とモ
もろは子腹あそ
あう

うけくハミキ
ミミ

日教あそ
コハ

おの集は又世
らして山子
ふまつらす

たふ老れまあがらうしあき山の中とつて
まもふ老害の内とつてあうん

あうの山北まうくわらさんうき世の中ハあうひも好く
○山ノオウヘトミテナリヒカクシウツハヤウナウイ世中ニ住テ居
ルセンモナイ

世の中ノうきまあまあ山の中ハあうまきまあ
○世中ノウイフニアキハテモモウトマナリトモ
山ハカクシウカシラタ
おあうとと好きあ
そのまハ乃より好

世のうきあまあ山の中ハあうまきまあ
○世中ノウイフヲカモウモセ又山中ハハツテ住トモハドウモ
又ステラシ又人がアツテソレサツカレルナイ
山のあうとと好きあ

丸の内形怪

世の中ノ山子ハあう山の中ハあうまきまあ
○此坊極モ山ニオヌヒヤカソウ多ク世ガウイ上テテスラシ
ウテ山ハハツタ人カ山ニスミモソレモダヤリウイ時ハ
ドチハイラフヤシリセ又

歴代は御座候
其の勢あり
ひきかへて都の
ありて聞きし

又徳天自の御府
てありてあり
しとてしとて
ありてあり

とてしとてしとて
ありてありてあり
あり

たつむりの御座

あまきやひのりよりれはむとろくは上の輝きいさうせん

○遠く井ノ丸へおしき居居テはやうニオキテテ 羅所は

スレゴトヲアモウトハめテカイ 必ヒモミラチタフヤ

子林をまはさきを鑑とくく網羅的宛あくせ
くおもてまきとらをさきとくくしとてきとて

田村の以耐まてとあまうりて降の玉の手ぬとく

一ろ子このり ゆるり子まのうちまはるるん

つりーる 在京初平朝臣

日まのりよとあまうりて降の玉の手ぬとく

○京テヌカフヲ誰モ同テケル人ハアルイケレモレモレセント

同テケル人モアズズ 又ハ須ノ浦テ海士ノスレゴトヲレテ

キツシ難美ヲレテ居ル上ヲ下サレ

左と右監とくくゆるり 附子女のらるるの小おた

セりりゆるりゆるり子まてつりーけ

とてしとてしとて

あまびのりよりれはむとろくは上の輝きいさうせん

○ワタレモハツツ及ヒトホリノ社会テタウツツ技とテ 承テハナ

カト存亮時節ニカヤウニ訪下サルバ 今テハモウヤ 天介

こゝろをなすこと
るの何のあはれ
あはれ

此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く此の事下サレタヤウ并存
子下サレタ ありきとハ天上此人を之うおごりくとも
小これより見たり。御村おま子山夫とおあぐりく
既^{トキ}もあま子たげ。此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
るべくも有り。此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
ことあぬびことあり。但し此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
あはれ。此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
つささけく。此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く

平、とらん

今の子下サレタヤウ
此の事下サレタヤウ
此の事下サレタヤウ

○此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
中テ^ユ世に出ヌトゾイ 初句ハ世の句此の事下サレタヤウ并存
るべくも有り。此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
つささけく。此の事下サレタヤウ并存とスルサ方く
ありきとハ天上此人を之うおごりくとも
○イツテモ生テ居ル命デナイ オツケ死ヌルヲ徳^{トキ}カノ間ナ

とあるは...
きん

ふいと...
か...
山...
...
...

ヤニセメテソノ肩ナリトモドウツヤウニツライ苦者ノ多ウナイガ
ニレタイチヂヤ

ここのまねたちらきおねらとやブスつらうおは
すともくともてはるるとよあめ

こやぢのきよめ

つらぬのおれおとこちがよるまのこゝぬのけとこひつ
○筑波山ノキツウミガテ丸ヤウニハズミノ海イ妻宮ノ陰ヲ
コノ上ヘナガラドウゾト教ミオツテハヒタスヲ其ノ所辺ヲサオラ
イナシスル 餘材上の句は流石なり

思ふまゝにおもひが
けり...
...

時あり...
いづつ...
ひてよめ

○日ノ光リアタラヌハ春モヨソクテ春弁クフモナケバ
ツノカハリニ又早ウモガチツテ惜イムトモナイヤウチモテオビガ
ヤウニ本カラモサカヌオハ人ノ度ノヤウナ教キモナケバ
カクコロモレカヤ

うろこ子...
...

子止てハの相ま
こまはまはまはま
いそおがくノ子ハ日
をいそまうとてよあ
るくはらまはらま
んがらま

くてうらうらまはまきてよまてあまうらま

コままてハまうとまあおひまやままをまてあまをまんま

○海イホヨラフと分テトホイ山里へ氣ツテ君は自カリとセムと存

ジニシカキ存レモヨリセナダテガリメスツタハ氣ツリナ

レタラフトツレテ入コレアままハカツタホトナ存レニ

海まの甲ままはまはまてあまうでくまてまま

らまはままてあまうけ

年ままてままてあまのまはまはまはまはまはまはま

○年久少性ままはまはまはまはまはまはまはまはまはま

ヤニイヨクアテテ草ノカイ所ニテカナコサラウ

ク

ままはまはま

所まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

○サトア此里カ所ニカマナラワレハ氣ツト日ビヤウニ泣テ月日ヲ

タテニテゴホシウニモウコカラオマハセメテチヨツトモ出ナ

サレニヒツケガエソレヤアマレテガリてスソエ

らうあまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

影一らん

ままはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

ままはまはまはま
ままはまはまはま
ままはまはまはま
ままはまはまはま
ままはまはまはま
ままはまはまはま

はなは人のきよき
こころをいふ

○オマカワシラトデモナイモノニサツテ ウイメニアユエニシテ

ワタシハ難波ノ三浦支系ツテ尾ニナリマシタ

難波浦ニ海本浦ト申クモシタリ。

はなはあはる人おろしととこありなるといふ所のを

とていふはありよき難波のふれぢちよあり

てあまよきありよきとていふつらせりけ

るもあはる

うへ

あまよきとていふはあはるのふれぢちよありなるといふ所のを

ワタシハウニシタニ恨ミラレヤウチナニモモエテナイニ何ヲア

フクニシテ尾ニナリサツタリ 浦と申クモシタリ

ふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

ありふれぢちよありとていふはあはるのふれぢちよあり

おとまりてよめ 伊勢

飛鳥川あふもあふもをたもせりうりね、おまど有る

○アスカ川(河)コソ取ニカハルモヤト及テ居ソ、飛鳥川(河)

デモナイワガ家モ不仕合セナ時セツニト、取ニカハルツテユクモノ

ガヤウ(河)ニトテハソレアノオア、レノガテニカ

つゝし、おまど有る、おまど有る、おまど有る、おまど有る、おまど有る

ゆとふ、おまど有る、おまど有る、おまど有る、おまど有る

○京(都)教(院)カハラ、スヅリ、デモ、ツテ、ス、バ、何、ト、モ、キ、ウ、モ、ヤ、リ、ガ、カ

と、の、え、の、お、ま、ど、
つ、と、く、座、上、ま、ま、の、ま、
お、ま、ど、な、い、ま、あ、い

お、ま、ど、な、い、ま、あ、い
お、ま、ど、な、い、ま、あ、い

ツテ先年、カウニモ、ツテ、シラ、タ、野、へ、あ、ツ、タ、ヤ、ウ、ニ、ガ、ル、ツ、テ、故、事、を

ト、毎、度、其、若、ヲ、打、テ、何、イ、モ、塞、シ、テ、面、白、ウ、ク、ラ、ニ、タ、其、許、カ、サ、志、ウ

女、も、も、も、と、お、ま、ど、有、る、お、ま、ど、有、る、お、ま、ど、有、る、お、ま、ど、有、る

お、ま、ど、有、る

わ、た、ま、り、神、の、中、に、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い

○ワ、カ、タ、マ、ヒ、オ、ウ、リ、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い

ツ、テ、ア、ナ、タ、ニ、ト、ツ、テ、ア、ル、ガ、存、在、セ、ヌ、サ、ウ、カ、シ、テ、ア、ナ、タ、カ、ラ、取、リ、イ

シ、テ、カ、ラ、ト、ツ、ト、ワ、レ、オ、マ、ヘ、ノ、ガ、リ、名、フ、テ、ウ、カ、ク、ト、取、シ、テ、タ、マ

シ、ヒ、ガ、コ、ニ、ハ、ナ、イ、ヤ、ウ、チ、コ、ロ、モ、ナ、デ、ゴ、ガ、リ、マ、ヌ

ちのまよ人とあひまうてのよひつゝかれやうあ
大和女六
 こ形のまきさうきやまなまどもほげあき
 きまそんまきさうきやまなまどもほげあき
 つらぎやまなまきさうきやまなまどもほげあき
 およまそんまきさうきやまなまどもほげあき
 ろうりまきさうきやまなまどもほげあき
 中よまそんまきさうきやまなまどもほげあき
 あまそんまきさうきやまなまどもほげあき
 くれまきさうきやまなまどもほげあき

つまはらうとん
 冢あり
 井代紀よこの下のも
 常きつらやうり井
 社子ハちんまきさ
 徳と

あうまらうとあんのつゝへ

張まきさうきやまなまどもほげあき
 ○三 けい田山名ミキ誰禊マレテハシレテオイタ 庭をりやガガキカラ

ヒキツイテ久レウウク 本條付をの尻符材より

よるれん肘あべとをぬきをのくもあきぬぬとまきさ

○人バウラウヤラ 三ヨクリキレヌモノオバ 信ミレ入ニ忘レラレタ

井ニコロアテヒダセト名フテサ けい摩りニモノヲカイテ 手ハカ

ノコレテオキマス

貞観の内府系葉集のつらぎうつゝまらうとん

世のひびきをよきものなりぬ

丸や乃ありしを

上ハ年あり
筆花もみぐさハ
このころの世なり
筆花もみぐさハ
筆花もみぐさハ
筆花もみぐさハ

○上コレハ奈良良ノ宮ノ御代古ノ又曰テコレハリマス又ハ奈良良ノ宮ノ
御代ニ古クヲ集メテトマス集カサコレハハ万葉集コレハニサリマス
あとの筆花もみぐさハこのころの世なりよつとていふこと
いふことよすふたをちをよきものなりぬ。 附文あり
世のひびきをよきものなりぬ

大江山

大江山
大江山
大江山
大江山

○世間ノ人ハみな身ヲ教スニ 教イテナリマス 誰モ申上ニ下サレハナイフカヤ トウシテ
子ヲ上ヘテ傳テトサレカレ

大江山

○人ニハイズニ世を教フアル心ハドウカシトウシテ
チ出テ上ノ目モ足テカレ

